

たまごスイーツコンテスト～学校との連携～

南足柄市
社会福祉法人県西福社会
知的障害者通所施設プレアデス（ふくらん）
法人事務局長 柴田和生

1 はじめに

社会福祉法人県西福社会は、平成13年4月身体障害者の入所施設「足柄療護園」の運営をスタートしました。平成22年より知的障害者の通所施設「プレアデス」を開設し「生活介護」「就労継続支援B型」の事業に着手しました。「就労継続支援B型」では、請負作業を中心として、その作業量に応じた利用者工賃を支払っていますが、内職的な作業では工賃向上は望めず、工賃向上を主の目的とした新たな取り組みとして、たまごにこだわったシュークリームやプリン製造販売を行うお店「ふくらん」を平成25年7月にオープンしました。

一方、障害者の理解を深め、インクルーシブな社会の実現のためには、教育段階から関わっていくことが必要であると考え、法人では平成20年ごろから積極的に、障害のある方々と共に、小中学校、高校、大学への出張授業に出かけています。

そうした学校との連携をいっそう進めていく中で、以前より保育学科との交流関係のある「小田原短期大学」の食物栄養学科で学ぶ学生たちに「ふくらん」の商品企画の提案をしていただくことはできないかと考え、実践してきた取り組みについてご紹介します。

2 事例や取り組みの紹介

小田原短期大学は、約60年前に小田原女子学院として誕生した歴史ある学校で、現在は各学年、保育学科140名、食物栄養学科80名が学んでいます。当法人とは、保育学科の出張授業として利用者と共に出かける講演活動や、保育学科の実習の受入れ、またボランティア活動の受入れなど、日ごろから関係の深いお付き合いをさせていただいています。

- (1) プラン名称 : たまごスイーツコンテスト
- (2) 開催の目的 : 「障害施設発信」で、地元地域の「人気商品」をつくりたい！
 - ① 障害者と共につくるお菓子で、世間をアッとさせたい！
(固定概念の強い福祉業界に変革を起こしたい！)
 - ② 既成概念にとらわれない学生の“自由な発想”に期待したい！
 - ③ 福祉と学校のコラボレーションによるメリットを活かしたい！
 - 障害者の働く場が地域にあることを知っていただく機会になる
 - 障害者福祉事業への関心を高め、学生の働く場（就職先）の開拓につながる
 - 実際に販売する商品の開発や販売に携わることにより成功体験を得られる
 - 地域活性化の一環として注目される
 - 社会貢献活動として学校のイメージ向上につながる
 - 学校と福祉の連携という新たなモデルを確立する

- (3) コンテストの内容 : 「こだわりたまご」を使った商品を企画提案する。
- (4) 開催の時期 (この間、2回のコンテストを開催した。)
- 第1回 平成26年4月15日～8月5日
- 第2回 平成28年4月27日～7月21日
- (5) 対象者 : 食物栄養学科2年生
- (6) スケジュールと具体的な取り組みの状況〔第2回〕

<p>① コンテストの説明及びセミナーの開催〔4月27日〕</p> <p>コンテストの主旨とスケジュール及びエントリー方法について説明を行った。合わせて、店舗企画や商品企画開発を生業としているコンサルタント講師から、ヒット商品人気の秘密や商品開発のヒントなどについて、セミナーを開催し、学生の学ぶ機会を提供した。</p>	
<p>② エントリーシートの提出〔5月17日〕</p> <p>全学生が参加し、ゼミ単位や友達同士などでチームを編成し、ひとり2～3チームに所属するなど積極的にエントリーが行われた。</p>	
<p>③ 研究開発及び企画書の提出〔提出7月1日〕</p> <p>まずは、新商品の企画検討を行い、授業やゼミの時間を使って、企画書の作成を進めた。</p> <p>企画書には、商品名、商品のキャッチコピー、商品イメージ、原材料、販売価格などを記入して期限までの提出を求めた。</p>	
<p>④ 1次審査〔7月6日〕</p> <p>企画書の内容を精査して1次審査を行い、7チームを選考した。</p> <p>1次審査を通過したチームは、さらに研究開発をすすめ、コンテストに向けた準備を行った。</p>	
<p>⑤ コンテスト〔7月21日〕</p> <p>コンテストの最終審査当日は、小田原商工会議所会頭を審査委員長として、小田原短期大学学長、当法人理事長などの審査員メンバーで、各チームから10分のプレゼンテーションと開発商品の試食を行った。</p> <p>プレゼン審査では「プレゼン力、独自性」、試食審査では「味、しずる感、完成度」について評価を行って、「最優秀賞」「優秀賞3本」「ふくらん特別賞3本」を選考し、その結果をその場で発表した。</p>	
<p>⑥ 開催の情報発信</p> <p>コンテストの様子は、「ふくらん」のホームページに「小田短コラボ」の専用ページを作成し取り組み状況を紹介し、合わせてfacebookでは新しい情報を随時発信した。</p>	
<p>⑦ コンテスト表彰</p> <p>最優秀賞には賞金2万円、優秀賞には賞金1万円、特別賞には賞金5千円と、受賞各チームに賞状と賞状入れを用意した。商品開発にかかわる、たまご及び小麦粉は当法人で用意した。</p>	

(7) 実施結果

小田原短期大学の「産学連携」の取り組みを積極的に行う方針と合致し、コンテストの提案に対して大変共感いただき、とんとん拍子で話が進み実施することができました。この企画は当初より地域連携を念頭に置いていたこともあり、コンテスト開催に当たり、地元の小田原・箱根商工会議所にも相談させていただいたところ、快く後援をいただくとともに、最終審査であるコンテスト当日の審査委員長として会議所会頭に出席いただくことができました。小田原短期大学と障害者福祉サービス事業所との地域内での連携ということで、地元メディアも関心が高く、地元ケーブルテレビや新聞、フリーペーパーなどで紹介いただきました。

このコンテストに参加した学生からは、「人気洋菓子店や菓子製造業のコンサルタント経験のある方の話を聴けたことは、とてもためになった。」「お店で販売することを目的に、実際に商品を検討したり企画するこのような経験はとても貴重で、素晴らしい機会でした。」といった、喜びの声を多くいただきました。先生からも「学生たちの真剣な取り組みがとても印象的で、定期的開催してほしい。」ととても高評価でした。

第1回の最優秀賞受賞商品は、現在ふくらんにおいて、コラボ企画商品ということで実際に販売しています。

3 考察

この活動に取り組んだことで、メディアなどでの取り上げなど「ふくらん」の周知につながる大変良い機会となりました。「ふくらん」と小田原短期大学食物栄養学科との関係が作られたことで、これまで関係のあった保育学科とあわせ、学校と法人との関係がより深いものとなりました。平成29年度の学生募集用のパンフレットにも「たまごスイーツコンテスト」は取り上げられ、学校の特色のひとつに位置付けていただいていると感じます。

学園祭での「ふくらん」商品の販売からはじまり、現在では毎月利用者と一緒に学校に販売に出かけ、障害のある利用者と学生との定期的な接点ができたことに加え、400名を超す学生対象に販売することで、利用者工賃向上にもつながっています。

4 おわりに

「ふくらん」の事業がスタートして、まだ1年が経過していない中でのコンテスト提案にもかかわらず、快諾いただいた小田原短期大学には心から感謝いたします。出張販売中の学生との話の中で「学校説明会の時に「ふくらん」商品コンテストの話聞いて、それをやりたくて志望校をここに決めた！」と聞き、とても嬉しく感じるとともに、今後も定期的にこの「たまごスイーツコンテスト」を開催していこうと決心しました。